

研修 1

発達障害のある子どものための **ティーチャーズ・トレーニング**

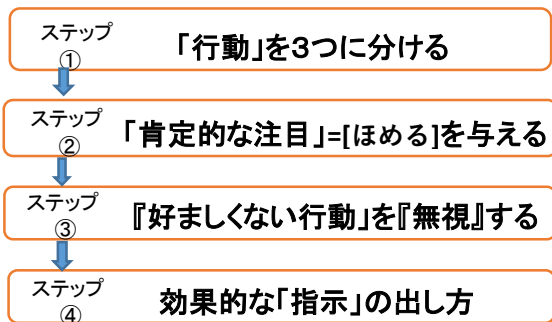
Tトレとは・・・子どもを変えようと子どもにトレーニングさせるのではなく
大人の方が子どもへの対応の仕方を見直し、『好ましい行動をほめる』
ことに目を向けるプログラム

ペアトレとは…発達障害を持つ子どもの親を対象に子育てに悩む親を支援し、
子どもの行動を変えるテクニックを身に付けるためのトレーニング

Tトレとペアトレの違い…Tトレは、基本はペアトレと同じ。ただし、たくさんの
子どもがいる中でどう対応するか、周囲の先生や保護者とどう連携を
するかペアトレを原型とした集団生活での子どもへの対応の仕方を学
び、実践する

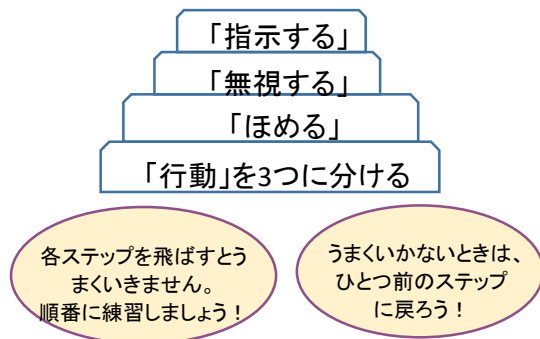
Tトレの流れ

4つのステップで進めます！



Tトレのポイント

① **ステップ・バイ・ステップ**



(1) 行動を3つに分ける

① 行動のABC

A () ⇒ B () ⇒ C ()

例) 教具が少ない→友達をせかす「早く変われよ」→しかられる/「今日だけよ」(ごね得)

② 「注目」のパワーに注目して戦略的に使う

例) カバンを投げる→叱られる→またカバンを投げたら先生来てくれるかな？

カバンを運ぶ→『自分でカバンをしまうのね』→またカバンをしまつて褒めてもらおう

③ 「肯定的な注目」と「否定的な注目」…注目には2種類あります

否定的[ネガティブ]

肯定的[ポジティブ]

④ 「行動」とは

『行動』の条件

- ・具体的に ()、()
- ・ () を数えられる
- ・動詞「 」で表現できる

『行動』を3つに分ける

★好ましい行動

▲好ましくない行動

✖危険な行動

例) 文句を言いながら、おもちゃを片付ける＝▲文句を言う、★おもちゃを片付ける
来所後の支度を＝★カバンから連絡帳を出す、★手を洗う、▲連絡帳を投げる

行動を3つに分けることでこんな効果も！

- ・「行動」を記録することで、対象の子どもをそれまでよりも冷静に見られるようになる
- ・見逃していた「好ましい行動」に気付ける
- ・問題行動が多いと思っていた子どもも、許しがたい「危険な行動」は意外と少ない事に気付ける

行動を書き出す時のポイント！

- ・対象の子どもが実際にしている行動を書く
- ・動詞を使って「～する」の形で書く
- ・具体的に、簡潔に書く
- ・複数の行動をまとめて書かず、ひとつずつ書く

「自分で自分をほめられる」のが
Tトレの長期的目標

ほめて育てると、子どものなかに自信
が生まれます。「自分はやればできる」
という自信がつくと、努力ができるよう
になる。自分で進んで努力し、努力の効
果を見て、自分で自分を認められる。そ

[2]肯定的な注目を与える＝「ほめる」

①「好ましい行動」を増やすためにほめましょう！

- * ほめる・・・（ ）
- * ジェスチャー・・・（ ）

②「ほめ方」のコツ《25%ルール》

25%ルールとは、「すべてできたらほめる」ではなく、「25%できたらほめる」というルール

- ・指示に（ ）とき
- ・好ましい行動を（ ）とき
- ・（ ）までできたとき
- ・（ ）でなくてもやったとき
- ・（ ）を言いながらも「やらなきゃ」と気付いたとき

例) 「座って待っててね」⇒動き出したら 『お！すぐ座るんだね』 とタイミングを逃さずに！

③「ほめ方」のコツ《伝わるようにほめる》

- ・近づいて、（ ）を合わせる
- ・（ ）や（ ）でなく、行動をほめる
- ・ほめるときは、（ ）
- ・表情（ ）表情で
- ・声の調子（ ）で（ ）声でほめる

[3]好ましくない行動を減らす「無視」と「ほめる」の組み合わせ

①「好ましい行動」を減らすために「 」をしましょう

- ・『好ましくない行動』に（ ）を与えない

例) ○○くん、勝手に外に行かないで！、また外に出たりして！

- ・「（ ）（＝しばらく待つ）」と「（ ）」の組み合わせ

例) 外へ出たことを無視+○○くん、お部屋に戻れたね。えらいね！とほめる

②無視とは

- ・「好ましくない行動」を「見て見ぬふりする」こと
- ・「注目」を取り去り、「好ましくない行動」が出るのを待つこと
- ・「好ましくない行動」が始まったら、すぐに（ ）する
- ・（ ）や（ ）を向けない
- ・否定的な（ ）（ ）（ ）（ ）を示さない
- ・（ ）準備をする《ほめ逃さないように》

③無視のコツ・・・他のことをする

- ・他の子どもをほめながら待つ
- ・次の活動に誘う
- ・代わりにしてほしい行動を考える

[4]効果的な指示のしかた

①やるべきことを子どもたちに伝える

- ・待っていても止めない時、具体的な行動を伝える

例) ○○するよ！ ○○の時間だよ！

②「効果的な指示」のしかた（手順）

- ・子どもの注目を引く 例) ○○ちゃん
- （ ）を合わせる 例) こっちを見て
- 短く（ ）に指示する 例) お部屋に入ろう

→指示に従おうとしたらすぐにほめる 例) すぐに立てたね! 早~い

③合言葉はCCQ

C...Close (近づいて)

C...Calm (おだやかに)

Q...Quiet (静かに)

④「指示」を繰り返すときのコツ

- ・一度の指示でできないのは当たり前→従わなかったら他の子をほめてから、また指示する
- ・いったん離れてから、また指示してみる
- ・「指示」に従ったり、従おうとしたら、25%ルールですぐにほめる

⑤予告をする

- ・ () で予告する
- 例) 「長い針が○のところにきたら、お片付けするよ」
「タイマーがなったら、友達と変わろうね」

- ・ () で予告する
- 例) 「○○ちゃん、あと3回滑ったら終わりだよ」

⑥ () させる…尊重されると感じると「指示」に従いやすくなる

- 例) 「ひとりで片付ける?先生と一緒に片付ける?」

【5】年齢や発達の特性に合わせたかかわり方をしよう

- ・小学校高学年への対応も『CCQ』が重要
- ・年齢が高いほど変化はゆっくり、あせらずに
- ・「指示」だけでは通じにくい子にはこれからしていくことを視覚的に見せたりする

【6】職員間での連携やTTLの考え方を共有して、取り組む

- ・「無視」への理解→「指導しなくては!」の使命感を捨てましょう
- ・成功体験が連携を強める
- ・相手を否定せず、強制しないスタンスで取り組む
- ・職員間での報連相を大切に!